

I 不安な時代

1. 膨大な情報の氾濫、気候変動による災害、経済の不安、冷えた愛、無差別に襲う犯罪――これらすべては客観的な状況の暗闇です。
2. その結果：
[他人を攻撃して自分を守る] [心を閉ざし、少し麻痺させ、深く考えないようにする] [まじめに考える結果、精神的病いを煩う] [熱中できるものに没頭して周りを見ない]――これらすべては主観的な内側の暗闇です。
3. 不確かな、うつろい動く、先が見えないものから、確かな、真実なものに転機する機会が必要です。

II 命の光を持つ

1. 人は暗闇の中に生まれました。
2. 人は人生が何かわからなくされました。
3. 人生を知らない、真の善悪を知らない、自分自身を知らない、神を知らない――これはすなわち暗闇の中にいることです。
4. わたしたちは他の人が罪を犯しているのを見ますが、自分自身が罪人であることを見損なっています。

<ヨハネ福音書 8 章 1-11 >

1. しかし、イエスはオリブ山へ行かれた。
 2. そして朝早く、彼は再び宮に入られた。人々がみな彼の所に来たので、彼は座って、彼らに教えられた。
 3. すると、聖書学者たちとパリサイ人が、姦淫の時に捕まった女を連れて来て、真ん中に立たせ、
 4. イエスに言った、「先生、この女は姦淫を犯しているところを捕まえられました。
 5. モーセは律法の中で、そのような女を石打ちにするよう、わたしたちに命じています。ところで、あなたは何と言われますか？」。
 6. 彼らがこう言ったのは、イエスを試すためであり、彼を訴える口実を得ようとしたのである。しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に書いておられた。
 7. 彼らがしつこく問い続けたので、イエスは立ち上がって彼らに言われた、「あなたがたのうちで罪のない者が、まず彼女に石を投げなさい」。
 8. そして再び、彼は身をかがめて、地面に書かれた。
 9. 彼らはそれを聞くと、老人から始まって、一人また一人と去って行った。そしてイエス一人が残され、女はその真ん中に立っていた。
 10. イエスは立ち上がって、彼女に言われた、「女よ、彼らはどこにいるのか？ だれもあなたを罪に定めなかったのか？」。
 11. 彼女は言った、「主よ、だれもいません」。イエスは言われた、「わたしもあなたを罪に定めない。行きなさい。今後はもう罪を犯してはいけません」。
5. 人が暗闇の中にいる理由は、人には罪があり、また罪が自分に死をもたらすということです。
しかし、主は人を罪から解放するために来られました。
すなわち主は、人を暗闇から光の中へと移すために来られました。

III 主は人の光である

1. 暗闇を追い払うのは光です。
光は暗やみの中に輝いている。そして暗やみはそれに打ち勝たなかった（押さえ込みようがなかった）。
(ヨハネ福音書 1:5)

2. 主は人を罪から解放し、そして人に彼の命を与えることができます。
3. この命が人の死と共に、人の暗闇を消し去ります。
4. 命を持つ者だけが生きている感覚を持ちます。
5. 死の中にある人たちは罪を犯しても何の感覚も無いのです

彼らは、理解することで暗くなり、彼らの中にある無知のゆえに、その心のかたくなさのゆえに、神の命から遠ざけられ、感覚を失ってしまい、自分自身を淫蕩にゆだねて、飽くことなくあらゆる不潔を行なっています。
(エペソ人への手紙 4 : 18-19)

IV 命を得て光の中を歩く

1. 主は命の光であり、人の光です。

<ヨハネ福音書第 1 章 1-4 >

- 1 初めに言があった。言は神と共にあった。言は神であった。
 - 2 彼は初めに神と共にあった。
 - 3 すべてのもは、彼を通して成った。成ったもので、彼なしに成ったものはなかった。
 - 4 **彼の中に命があった。この命は人の光であった。**
2. わたしたちが命の光である彼に従うなら、暗闇から解放されて命の光の中を歩きます。
 3. 従うためにすることは、主イエスを命として、命の光として受け入れることです。
 4. 主イエスを呼び、彼を受け入れるなら、彼はまさしくあなたの中に来てあなたの中に生まれます。

イエスがキリストであると信じる者はすべて、神から生まれています。そして生んでくださった方を愛する者はすべて、彼から生まれた者を愛します。 (ヨハネ第 1 の手紙 5 : 1)

5. その時からあなたは命の光、すなわち命の感覚を持ち、愛を持ち始めます。
6. この感覚に従って歩くなら、悔やみの中を歩くことがなく、命の光を持ち続けます。

V 主イエスは信頼に足る神・人である

○命について

また、生きていてわたしの中へと信じる者はすべて、決して永遠に死ぬことはない。あなたはこれを信じるか？
(ヨハネ福音書 11 : 26)

○保護について

父がわたしに与えてくださる者はみな、わたしに来る。そしてわたしに来る者を、わたしは決して追い出しはしない。
(ヨハネ福音書 6 : 37)

○平安に満ちた生活について

こうして、イエスは再び彼らに語って言われた、「わたしは世の光である。わたしに従う者は、決して暗やみの中を歩くことがなく、命の光を持つ」。
(ヨハネ福音書 8 : 12)

1 (262)

えい光のひかりいま、こころを照らす；

目にうつるものみな、かがやき満つ。

(復)えい光のひかり満つ、よろ

こび寄せきたる； 主が

ほほえみはなつとき、えいこうあふる。

- 2 こころにしらべあり、 主をほめたとう；
わがうたつたなくも、 主は聞いたもう。
- 3 こころにやすきあり、 主、うちに住まば；
めぐみのはなひらき、 はともうたう。

2 (補117)

かみをとおくはなれて まよいしわれ

ことばのひかりのなかでいま知らん

(復)主、生きたもう、 わがうちに、

おお、何たるすくい、主わがうちに。

- 2 たい陽、地を照らさば はなひらくよう
いのち、ひかり、あいも 主よりながれん
- 3 めぐみ、まことに満つ 主にく身取り
われらにゆたかさ たのしませんため